が受講した際には，その冒頭において本書が参考書の筆頭に挙げられた．講義は本書の内容を幾分肉づけしまたその後の研究結果を補足しもっと専門的にしたようなもので，非常に明快で魅力ある名講義であった．したがって，筆者はこの本を耳からも読んだことになり，何時読み返してみても，先生の気合のこもった肉声が耳朶をうつのを覚えるのである．さらに筆者は先生から親しくゼミナールの御指導を受けたばかりでなく，常に御自宅で囲碁のお相手をつとめ，あるいは各地の名所めぐりのお伴をさせて頂き，その折り折りに宇宙についての御高説を承つた．その後筆者は，先生の愛弟子である小貫教授の下で働くことになり熊本に赴任したが，最初の帰省のとき車中にともなったのもこの本であった．当時は食堂車も寝台車もなくて車内は混雑し，荷物は食糧でふくれあがっていたので，あまり嵩ばらないで丈夫な本というわけで，固いケース入りの小冊子であるこの本を選んだものらしい．そのとき先生はすでに病床にあり，「君が来たのに碁を打てなくて残念だ」などと冗談をとばされていたが，筆者がこの本を抱きながら熊本に帰る車中にあるとき，先生は仙台の病院で天に昇られたのである．今ではこの本はむしろ思い出深い恩師の形見のようなものにさえなっている．

本書の第5章で先生は「米国に於て200インチの大反射望遠鏡が計画され目下完成に近づきつつある．是が完成された暁には吾等は更に驚異すべき幾多の新事実を発見するであろう」と述べられパロマーの200インチに多大の期待を寄せておられたが，今日の宇宙論の観測理論両面における著しい盛況を御覧になったならばどんなにかお喜びのことであろうと思う．本書が世に出てからすでに30余年になる．宇宙論に関する優れた論文や啓蒙書は少くないが，日本語で書かれた専門家にも役立つ本格的な書物がそろそろ現われてもよいのではないかと希望しているのはひとり筆者ばかりではないであろう．

（熊本大学理学部物理学教室）

雑　報

生駒山太陽観測所の閉鎖

京都大学理学部附属天文台に属する生駒山太陽観測所（奈良県生駒市鬼取町岩ケ谷）は，昭和16年7月に設置されて以来約30年間，太陽分光写真儀などによる太陽の常時観測を続け，日々の太陽面現象の記録を国際共同観測網のひとつとしてサービスして来ました．

近年，同観測所近辺の住宅観光開発，各種自動車道路の開通，阪神工業地帯からの煤煙などのため，その観測環境はいちじるしく悪化して来ました．このため同観測所は昭和47年3月31日をもって閉鎖されました．同観測所における3万枚におよぶ太陽写真乾板，各種の観測機械などは飛騨天文台（岐阜県吉城郡上宝村）に移転保管されることになりました．飛騨天文台において太陽観測機械の近代化をはかり，同観測所における太陽観測を継続発展させる計画であります．　（神野光男）

学会だより

偕成学術奨励金申請課題募集について

財団法人偕成会は，例年の要項にしたがって，学術奨励金の申請課題を募集しており，本年も学会あてに，その推薦依頼がありました．申請希望の方は，6月15日までに，学会庶務理事まで御連絡下さい．なお，募集要項の詳細は学会におたずね下さい．

年会のプログラムと予稿集脱落のお詫

川口市郎氏（京大理）の「プロミネンスティル」が，事務所の手違いで脱落しました．御迷惑をおかけした川口氏ならびに会員諸氏にお詫いたします．また印刷所の手落から予稿集に一部印刷もれの生じたものがあります．御不便をおかけして申訳ありません．残念ながら残部がありませんので交換の申入には応じられません，よろしく御了承ください．

1972年4月の太陽黒点（g, f）（東京天文台）

1	4,	15	6	6,	31	11	6,	63	16	7,	32	21	7,	57	26	—,	—
2	10,	37	7	—,	—	12	—,	—	17	6,	50	22	9,	52	27	6,	36
3	3,	30	8	—,	—	13	7,	78	18	5,	51	23	—,	—	28	6,	39
4	—,	—	9	—,	—	14	5,	54	19	7,	51	24	10,	55	29	6,	29
5	6,	27	10	7,	57	15	—,	—	20	—,	—	25	8,	54	30	3,	8

（相対数月平均値：　77.0）

昭和47年5月20日　編集兼発行人　〒181 東京都三鷹市東京天文台内　森本雅樹
印刷発行　印刷所　〒112 東京都文京区水道2-7-5　啓文堂松本印刷
定価 175 円　発行所　〒181 東京都三鷹市東京天文台内　社団法人 日本天文学会
電話武蔵野 31局（0422-31）1359　振替口座東京 13595